

通信制

自分スタイルの確立！

全日制

可能性への挑戦！

おめでとう！【快挙】篠塚くんが県でNo.1

飲酒運転根絶メッセージコンクールで“最優秀賞”

「一杯だけ」が全てを壊す—— 悲しい実体験から生まれた“マジ”な願い

みんな知ってましたか？

令和7年度の「飲酒運転根絶に関するメッセージコンクール」で、なんと本校の篠塚くんが千葉県最優秀賞を受賞しました！

多くの応募者の中から選ばれたトップ・オブ・トップ。受賞の知らせを聞いた篠塚くん本人も「まさか自分が選ばれるとは……本当にびっくりしました」と、驚きを隠せない様子でした。

でも、そのメッセージには、ただの標語とは違う「深すぎる理由」があったんです。今回は、そんな篠塚くんに直撃インタビューしてきました！

■ 受賞作品はコレだ！

飲酒運転の代償は計り知れない。

一杯だけが人生を、未来を、笑顔を奪います。

飲まない、運転させない、許さない。

飲酒運転ゼロを目指そう

警察の方の話を聞いて書いたというこの作品。特に「人生を、未来を、笑顔を奪う」という部分、グサツときませんか？

篠塚くんによると、これは「事故で亡くなったら、本人の人生だけでなく、遺された家族の笑顔や、未来ある子供たちの将来まで奪ってしまうから」とのこと。

一瞬の事故が、周りの人の幸せまで壊してしまう怖さが込められています。

■ 「許さない」という言葉の裏にある真実

メッセージの最後にある「許さない」という強い言葉。実はこれ、篠塚くんの実体験から来ています。

「知り合いが交通事故で亡くなってしまって……。こういう悲しいことは、もう起きてほしくないんです。」

被害者や遺族の辛さを知っているからこそ、飲酒運転をする人を「許せない」し、絶対に無くしたいという強い決意が込められていました。

また、冒頭の「一杯だけ」という言葉についても、「少しの量でも油断したら終わり。気の緩みが取り返しのできないことになる」と、私たちの心に潜む「甘え」に警鐘を鳴らしてくれました。

■ もうすぐドライバーになるみんなへ

最後に、同世代の皆さんへメッセージをもらいました。

「これから卒業して免許を取る人も多いと思うけど、自分の身も、相手の身も守るために、本当に気をつけて運転してください」

お酒が飲めるようになるのは二十歳からだけど、「車に乗るなら絶対に飲まない」という意識は今から持っておきたいですね。

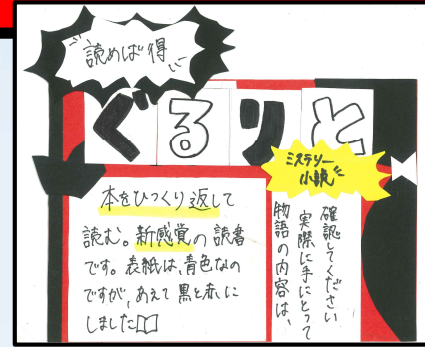
篠塚くん、本当におめでとう！そして、大切なことに気づかせてくれてありがとう！



「自分さえ良ければ」を変えたい!心に刺さる“黒と赤”の警告

ポップ大賞(1年生の部) 校長賞受賞:浪川さんインタビュー

国語科が主催する今年度の「ポップ大賞」。1年生の部において、数ある力作の中から、見事「校長賞」に輝いた浪川さんに、制作の裏側や作品に込めた熱い思いを聞きました。



鮮烈な色彩に込めた「いじめ」へのアンチテーゼ

受賞作の題材となった本は『ぐるりと』。一見すると明るい表紙の本ですが、浪川さんのポップ作品は、黒・赤・黄色という強烈なコントラストで構成されています。「正直、もう少しうまくできたかなという思いもありました。でも、工夫した色使いを評価していただけてすごく光栄です」

そう謙虚に語る浪川さんですが、この配色には深い理由がありました。

「この本はいじめがきっかけの物語です。原作の表紙は明るい色なんですけど、いじめという『黒い印象』、そして絶対に避けなければならないという警告の意味を込めて、あえて黒と赤、そして黄色を選びました」

単に目立たせるだけでなく、作品の核心である「いじめ」というテーマを、視覚的に訴えかけるデザインへと昇華させた点が、今回の受賞の決め手となりました。

きっかけはショート動画、そして紙の本の魅力

普段から「紙の本」の手触りが好きだという浪川さん。この本との出会いは、意外にも現代的なショート動画でした。

「本を紹介している動画が流れてきて、その紹介の仕方がすごく良くて、『うわ、読みたい!』と直感しました」

動画で興味を持ち、実際に紙の本を手取る。デジタルとアナログを横断する読書体験が、この作品を生み出す原動力となりました。

「グサツと刺さる」メッセージを共有したい

実際に『ぐるりと』を読んで、その内容は心に「グサツと刺さった」と言います。

「『自分には関係ない』と見て見ぬふりをする人が多い中、『自分だけが良ければいい』という世界はなくしたい。みんなが一緒に幸せになってほしい。そう強く思いました」

浪川さんの作品は、単なる本の紹介にとどまらず、「誰もが幸せに暮らせる世界であってほしい」という強い願いが込められたメッセージカードでもあります。

今回の受賞を励みに、これからもたくさんの本に出会っていきたくて語ってくれた浪川さん。その感性が次にどんな物語を見つけ出すのか、来年の作品も楽しみです。

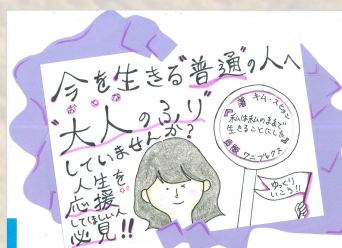


【校長メモ】

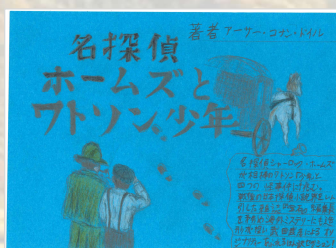
インタビュー中、謙虚な言葉の端々から、作品テーマに対する真摯な姿勢が伝わってきました。単に「上手な工作」をしたのではなく、「伝えたい強い思い」があったからこそ、見る人の心を動かす作品になったのだと感じます。

その他の優秀作品

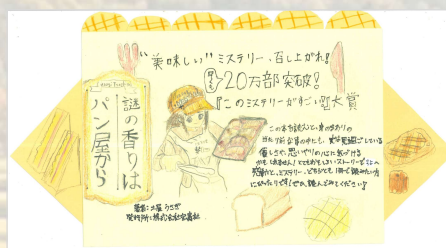
※ 2年生については、後日紹介する予定です。



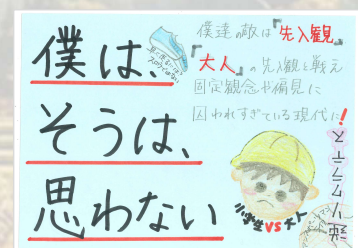
稲木賞



五十川賞



砂明利賞



長内賞

通信制課程 増島生徒会長がラジオ成田に出演

初めてのラジオ出演を経験した生徒会長は「少し緊張したけど、思っていることはしっかり伝えられた。自分は通信制に来て、積極的にいろいろな挑戦できるように変わることができた。いい仲間とも出会えた。少しでも、本校通信制の魅力が伝わればうれしい。今までにない体験ができたのも、ありがたかった。これからも、いろんなことに前向きに挑戦していきたい。」と語っています。

また、オンエアの様子を聞いていた保護者の方も「息子がラジオで話すなんて、今まで考えられなかった。いい経験をさせてもらってありがたい。これからも頑張っていってほしい。」とお話されました。

